

音楽とアートでつながる地域の輪

～ 障がい者支援 チャリティーコンサート 2年ぶり開催 ～ 500 名を超える方が集う

令和 8 年 5 月 23 日(土)三郷文化会館大ホールにてチャリティーコンサートを開催しました。

当日は朝から会場設営が始まり、同時に障がい者アート展の準備も進められました。集まった作品の数々はどれもこれも個性と魅力にあふれ「すご〜い」「才能だな〜」と思わず声が漏れるほどでした。

児童発達支援・放課後等デイサービスの子供たちが制作した、ひまわりやあさがおの作品はサイズも大きく迫力があり、会場を明るく彩っていました。それぞれの作品からは力強いエネルギーが感じられ、見ていだけで元気をもらえました。



(出展者の声)

- ・皆さんに作品を見てもらう事で、また作品をつくろうと思った。
- ・どの作品も素晴らしかった。自分の作品が、子供達に人気があったと聞き嬉しかった。
- ・他にも作品があります



いよいよ開場！当日は、バイオリンやピアノ、ギター、ヘルマンハーブの演奏をはじめ、合唱やフラダンスなど、多彩なプログラムが披露されました。来場者の皆様からは「とても良かった」「心に響いた」とのお声を多数いただき、改めて「音楽やアートが人と人をつなぐ力」を感じる一日となりました。

来場者は 551 人、協賛広告団体は 26 事業所、募金総額は 202,454 円となりました。いずれもチャリティーコンサート開催以来、過去最高の実績となりました。また、就労継続支援 B 型事業所パティオで制作している髪ゴムを募金へのお礼として(数量限定で一部の方になってしまいましたが)お渡ししました。利用者の皆さんが心を込めて作った製品を通し、活動を知っていただく機会にもなりました。

ご出演いただいた演者の皆様、ご来場くださった地域の皆様、ご協力いただいた関係者の皆様に心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

(就労継続支援 B 型事業所パティオ 佐口ルミ枝)



(参加者から 一部抜粋)

- ・あたたかな気持ちになれる素敵なコンサートでした。
- ・障がいのある方と一緒にの演奏も聞きたかった。
- ・塩澤先生の演奏楽しみにしていました。とても綺麗な音色で癒されました。





医療・介護をめぐる情勢と介護ウェブの取り組み



国内の医療情勢について、2025年度の医療機関の倒産件数は71件と過去20年間で最多となり、診療所32件、歯科医院31件、病院8件と、地域医療を支える医療機関の経営は深刻な状況にあります。一方で、「地域から病院がなくなる。期中での診療報酬改定を」と全国で取り組まれた運動により、補正予算による支援と、今年6月の診療報酬改定では30年ぶりとなる実質3%を超えるプラス改定を実現しました。しかし、その恩恵は急性期・大規模病院に偏る一方、リハビリ病院や在宅医療を担う診療所では減収も懸念されるなど、地域医療を支える医療機関には依然として厳しい状況が続いています。

さらに、今国会では、OTC類似薬の保険給付見直しを含む健康保険法改正案が可決されました。自己負担の増加や混合診療につながる可能性があり、経済的理由によって必要な医療が受けられなくなることが危惧されています。国民皆保険制度の根幹に関わる問題として、今後も動向を注視する必要があります。

さて皆さんにご協力いただいた介護ウェブ署名は、介護崩壊ともいえる危機に対し「介護再生プラン」を掲げ、介護保険制度の改善と介護保障の充実を求める全国的な運動です。各事業所・共同組織で学習会や請願署名に取り組み、累計31万4,751筆の署名が国会へ提出されました。その結果、「利用料2割負担対象拡大」「ケアプラン全面有料化」「要介護1・2の保険給付外し」という三大改悪は、今回の法改正では実施が見送られました。しかし、課題は残されています。利用料2割負担の対象拡大は2026年度も審議が継続され、ケアプラン有料化は住宅型有料老人ホームなどで一部導入が検討されています。また、要介護1・2の生活援助サービスの見直しや、中山間・人口減少地域での人員配置基準の緩和など、2040年を見据えた制度改革も進められようとしています。2027年度介護報酬改定や政府予算編成も今後の大きな争点となります。

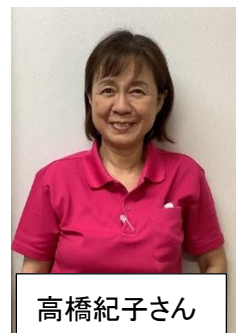
医療・介護・福祉の現場は、人々の命と暮らしを支える社会基盤です。私たちの事業を継続し、地域のニーズと時代の要請に応えていくためには、平和な社会と充実した社会保障が欠かせません。医療も介護も「必要な人が必要な時に安心して利用できる制度」を守るため、地域の皆さんとともに学び、声を上げ、社会保障の充実を求める運動を三郷北部地域から広げていきたいと思います。

(加藤明子)

永年勤続表彰

毎年、埼玉県では長く市内の企業や事業所で10年以上働いてきた方を推薦により「永年勤続者」として表彰しています。令和7年度は、アカシア会から7名の方が表彰されました。

- | | |
|-----------|------------------|
| * 居宅ふれあい | 岡田育代(おかだ いくよ)さん |
| * ファンハウス | 清宮拓也(せいみや たくや)さん |
| * えがお | 浅利晃子(あさり てるこ)さん |
| * ふれあい倶楽部 | 高橋紀子(たかはし のりこ)さん |
| * 和顔施 | 高田あかね(たかだ あかね)さん |
| * アカシアの家 | 根岸美穂(ねぎし みほ)さん |
| * 介護本部 | 寺田 慎(てらだ しん)さん |



高橋紀子さん

表彰を受けた 岡田さんへの質問

①一番心に残っている出来事は何ですか？

「働いてきた中で、『この仕事を続けてきてよかった』と思えた出来事や、今でも忘れられない利用者さん・ご家族とのエピソードを教えてください。」

A アカシア会で、ケアマネジャーとして働き続けられたのは「認知症」が学べていることです。

2017 年、クリニックふれあい早稲田のもの忘れ外来を受診し、「若年性認知症」と診断された62才の女性。その女性の担当となりました。ご本人は、聞きなれない病気に出会い、不安と不本意な思いの毎日。それらの思いをぶつけられるのは、介護者の夫。ご本人は、デイサービスに定期的に通い、落ち着いた生活が取り戻せました。一方、夫は妻が寝静まった土・日の 9:00 過ぎ、フィットネスクラブで筋トレに励み、そこで飲むビールに「うまい！」とグイグイ。夫の介護の秘訣は「ここにあり」と脱帽したものでした。

② 10 年前の自分に声をかけるとしたら？

「入職したばかりの 10 年前の自分に、今のあなたが一言アドバイスするとしたら、どんな言葉をかけますか？」

A 「人生、なんとかなる！笑って楽しく暮らしていこう」と自分にも声をかけています。

③ これからの 10 年に残したいものは？

「これまで受け継いできた大切なことの中で、これから働く職員や法人に『ぜひ残していきたい』と思うことは何ですか？」

A アカシア会は、地域の医療・介護・福祉を担っている法人。地域の方が、安心して住み続けていけるよう生活の伴走者として、私も業務に励んでいきたいです。

私の楽しみ……

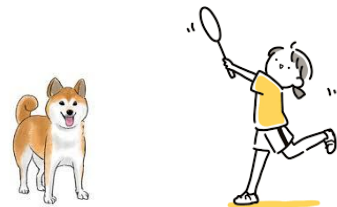
4 月よりクリニックふれあい早稲田で働き始めた看護師の板屋です。

私は自転車で通勤しており、毎日表情が変わる筑波山を橋から眺めながら通っています。

仕事後や休日は、バドミントンのクラブチームで活動する娘の送迎や、大会引率で忙しくしています。

家事が終わった夜には、柴犬の YouTube をみたり、医者・看護師あるあるのインスタグラムをみたりして息抜きをしています。

クリニックでは患者さんが受診しやすく、またスタッフが気持ちよく働けるよう笑顔で対応していきたいと思います。
(板屋 千夏)



遠～～くに、筑波山が見えるかな？

<地域の話題>

「ホタルのタベ 2026」



ほ・ほ ほ～たる来い こっちのみ～ずは あ～まいぞ ほ・ほ ほ～たる来い



6月11日(木)～16日(火)まで開催された高応寺「ホタルのタベ」はお楽しみいただけましたか。のべ3600の方にお越しいただき、深く御礼申し上げます。

高応寺に舞うホタルはゲンジボタルとヘイケボタルです。英語でホタルはFireflyといいます。まさに火の霊が飛んでいるようですね。

和名の由来は源平合戦です。源平合戦といえば、平家物語「祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり 沙羅双樹の花の色、盛者必衰の理を表す」と有名な一節があります。どんなに栄光を得ても諸行無常である事を仏教から説いています。また、平家は子孫繁栄を願い法華経を写経し納経しています。それが平家納経です。

仏教は三世(過去、現在、未来)の因果を縁と説きます。現世で合戦をした者が法華経の功德と供養を得て来世でホタルとなって高応寺の法華経を毎日きいて育ち、沙羅双樹の花を舞う様子は、今、がんカフェで出会う全ての皆様も等しく過去世の縁が今生の高応寺で再び縁を結び、互いに慈しみ合っているのだと拝察いたしますと、とても感慨深いです。皆様とは引き続き、未来世でもご縁があることを確信しております。

「今生足らざれば、また来世」今生で悔い残ることがあれば、来世へのお土産にしましょう。来世でも皆様にお会いできると思うと楽しみです。

改めてご参加くださることを深く御礼申し上げます。

合掌

高応寺 住職 菜法

【編集後記】

40号を発信してから、様々な事情があったとはいえ1年以上も空白をつくってしまったことを編集委員会一同お詫びいたします。

久々に編集してみて、改めてアカシア会の諸活動や地域の取り組みの素晴らしさ、その発信の大切さを痛感致しました。これからも隔月に頑張って発信していきたいと思います。(Na)